

[整形外科]

[研修の目標]

運動器救急疾患、外傷に対応できる基本的診察能力を習得する。適正な診断を行うために必要な運動器慢性疾患の重要性、特殊性について理解習得する。運動器疾患の正確な診断と安全な治療を行うためにその基本的手技を習得する。運動器疾患に理解を求め、医療記録に必要な事項を正確に記載できる能力を習得する。

[研修指導医]

岩瀬敏樹(副院長、下肢関節再建・人工関節センター長、医療機器管理センター長、患者支援センター長、整形外科部長)

日本整形外科学会専門医、日本整形外科学会運動器リハビリテーション医、日本整形外科学会リウマチ医、日本リハビリテーション医学会認定臨床医、日本医師会認定産業医、東海関節外科研究会幹事、浜松医科大学臨床教授、日本人工関節学会評議員、日本股関節学会評議員、中部日本整形外科・災害外科学会評議員

甲山篤(整形外科医長 兼 リハビリテーション科部長)

日本整形外科学会専門医運動器リハビリテーション医、浜松医科大学臨床准教授

[研修コース]

各科ローテートの一環として、一般臨床医に求められる整形外科疾患の基本的な診察知識・手技を修得する2～3ヶ月程度の研修を予定しているが、希望に応じて研修期間を変更できる。

[研修指導体制]

指導医とともに入院患者、外来患者の診察にあたる事により、以上の研修の目標を達成するように努力する。救急患者に対しては、原則として全ての症例に関与し、救急治療を担当する。週間のスケジュールとしては、月曜日：抄読会、火曜日：リハビリテーションカンファレンス、整形外科症例検討会、金曜日：リハビリ回診 などがある。これらを通じて整形外科、リハビリテーションの研修を行い総合的な知識とともに、ADLを中心とした考えを身につける。当科は、関節疾患(股関節、膝、関節)を中心に診察を行っているが、脊椎疾患・外傷など幅広い分野の症例を経験することができる事が当科の特徴である。

[研修内容および到達目標]

(1)救急医療

- ・筋腱、神経、血管損傷を診断し、適切な対応ができる。
- ・開放骨折を診断し、適切な対応ができる。

- ・ X-P、CT、MRI 造影検査の読影ができる。
- ・ 骨折を診断し、初期治療、応急固定ができる。
- ・ 骨、関節感染症の急性期の症状を理解できる。
- ・ 患者、及び家族の不安を理解し、注意深い配慮のもと病状や予後の説明ができる。

(2)慢性疾患

- ・ 関節リウマチ、変性性関節症、脊椎疾患、腫瘍の X-P、MRI、造影像の解釈ができる。
- ・ 腰痛、関節痛、歩行障害、四肢のしびれの症状、病態を理解できる。
- ・ 理学療法の処方を行うことができる。
- ・ 病歴聴取に際して患者の社会的背景やQOLについて配慮できる。

(3)基本的手技

- ・ 主な身体計測ができる。(MMT、ROM、四肢長、四肢周囲径など)
- ・ 疾患に適切な X-P の指示が出せる。
- ・ 関節穿刺、関節注射ができる。
- ・ 神経所見がとれ、それに即した評価ができる。
- ・ 一般的な外傷の診断、応急処置ができる。

(4)医療記録

- ・ 運動器疾患について正確に病歴が記載できる。
- ・ 運動器疾患の理学所見が記載できる。
- ・ 検査結果(画像、血液検査、病理組織など)の記載ができる。
- ・ 症状、経過の記載ができる。